

こどものうた弾き歌い指導における 進度別教材の活用に関する一考察 —「こどものうた簡易伴奏集」作成を通して—

仲嶺まり子 藤田 光子 安部えつ子

Consideration to the application of teaching materials corresponding to individual's progress of the study in teaching singing kids songs while playing the piano:
Through making a collection of simplified kids songs accompaniments

Mariko NAKAMINE Mitsuko FUJITA Etsuko ABE

【要 旨】

保育の表現技術科目の「器楽Ⅲ（こどものうたの弾き歌い）」では、他教科に比べ GPA (Grade Point Average) が低い科目として「到達目標」等の見直しを求められていた。

よって、本研究は、その改善策として①初心者向け教材「こどものうた簡易伴奏集」の作成、②弾き歌い教材別コース任意選択制の導入の試み、及び③「こどものうた簡易伴奏集」の教材としての適正、等の取り組みに関する調査研究である。

調査の結果、教材別コース任意選択制の導入においては、単位取得率や評価レベルの向上により GPA 平均アップの成果を上げることができた。「こどものうた簡易伴奏集」の教材としての適正については、学生アンケートでは「自分から頑張れた」「レパートリーが広がった」等の感想、保育現場アンケートでは「リズムが単調」「音の厚みがない」等の課題が示され、簡単に弾けるという面では初心者には有用な教材であるが、実用性においては、これらの課題改善の必要性が明らかになった。

【キーワード】

弾き歌い 簡易伴奏 ピアノ 初心者

1. はじめに

幼稚園教育要領における領域「表現」の第2章「ねらい及び内容」では、「(4)感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、

自由にかいたり、つくったりなどする。(6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」¹⁾また、保育所保育指針における領域「表現」の第3章「1 保育のねらい及び内容 (二) 教育に関わるねらい及び内容」では、「②保育士と一緒に歌った

り、手遊びしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。」²⁾のように音やリズム、歌など音楽に関連する内容が取り上げられている。

そのため、本学では「こどものうたの弾き歌い」演奏技術は、これらの表現活動を楽しく展開するために必要な音楽表現技術のひとつとして、保育士養成課程においては「保育の表現技術」、幼稚園教員養成課程においては「教育課程及び指導法」の選択科目として、「器楽Ⅱ」・「器楽Ⅲ」において指導を行っている。

また、約90%（表1）の学生が、教育・保育および福祉現場に就職しており、これらの就職試験においては、「楽曲」及び「こどものうたの弾き歌い」演奏の課題が課せられるなど、ピアノ演奏技術が求められることも多い。

2. 問題の所在

前述のように、「こどものうた弾き歌い」演奏技術は、表現活動を展開するために必要な保

表1. 平成25、26年度卒業生就職状況

(人)

卒業年度	卒業生	就職・進学	内 訳	専門職	進学	計	その他
平成25年度	204	202			150	29	179
		99%		74%	14%	88%	11%
平成26年度	215	213		155	32	187	26
		99%		72%	15%	87%	12%

表2. 平成25年度入学ピアノ初心者経験内訳

学生数	200	
初心者	179	89.5%

* 初心者（1年次バイエル教材使用者）

(人)

経験者	初心者 (経験なし)	初心者 (経験あり)	(経験あり内訳) 初心者	年数						計
				開始	1年未満	1~3	4~6	7~9	10~12	
21 (10.5%)	115 (57.5%)	64 (32.0%)		幼稚園	1	2	2	4	6	15
				小学校	2	11	14	8	2	37
				中学校	0	2	0	0	0	2
				高等学校	5	5	0	0	0	10
				合計	8	20	16	12	8	64

表3. 平成26年度入学ピアノ初心者経験内訳

学生数	231	
初心者	208	90.0%

* 初心者（1年次バイエル教材使用者）

(人)

経験者	初心者 (経験なし)	初心者 (経験あり)	(経験あり内訳) 初心者	年数						計
				開始	1年未満	1~3	4~6	7~9	10~12	
23 (10.0%)	140 (60.6%)	68 (29.4%)		幼稚園	1	2	2	2	3	10
				小学校	2	4	18	10	2	36
				中学校	1	0	0	0	0	1
				高等学校	14	7	0	0	0	21
				合計	18	13	20	12	5	68

育技術のひとつであるが、本学では、入学試験にピアノを課していないため、約90%の学生（表2、3）が入学前にピアノ経験の少ないいわゆる初心者である。ちなみに本学では、開始教材がバイエルの学生を「初心者」、ブルグミュラー以上の学生を「経験者」と称している。

その初心者学生の入学前ピアノ経験について、平成25年度入学者（表2）と平成26年度入学者（表3）の内訳を参照すると、平成25年度では、まったく経験のない学生が115名（57.5%）、何らかの経験のある学生が64名（32.0%）、平成26年度では、まったく経験のない学生が140名（60.6%）で、何らかの経験のある学生が68名（29.4%）となっている。何らかの経験のある初心者の中には、幼稚園や小学校から10～12年の経験のある学生も含まれているが、その多くは休止期間があったり、間隔を開けてレッスンに通うなどして、好きな曲やそれほど難易度の高くない曲のレッスンを受けながら継続してきたという状況が窺える。

また、経験者の中にも同様の経験内容の学生も見られ、手の形や運指が自己流のため、ピアノを弾くための基本動作の指導に時間を要するケースも多い。

そのため、これらの学生が、養成年限内に1曲でも多く「こどものうたの弾き歌い」を修得することを目標として、平成21年度より以下のような取り組みを行ってきた。

【平成21年度：「器楽」科目の開講時期の改定】

これまで、1年次のみであった「器楽」科目を2年前期にも開講し、下記のような「器楽」科目の開講形態に改定した。

- ・「器楽Ⅰ」…1年前期
(バイエル及び器楽曲)
- ・「器楽Ⅱ」…1年後期前半
(バイエル及び器楽曲(2))
1年後期後半
(こどものうた弾き歌い)
- ・「器楽Ⅲ」…2年前期
(こどものうた弾き歌い(2))

【平成22年度：副教材「こどものうた課題曲指使いサブノート」の導入】

こどものうたに関する指使いについての共通参考資料がなく、各教員で学生に応じた指導を行っていたが、その指導に時間を要していた。そのため、「こどものうた課題曲指使いサブノート」をピアノ非常勤講師と共同で作成し、教材『こどものうた200』『続こどものうた200』に加えて、副教材として導入した。**【平成26年度：ピアノ練習時間確認カードの導入】**

平成25年度に時間外練習時間確認のためのピアノ練習確認カード制度を試行。その後、平成26年度よりピアノ練習時間確認カードのレッスン時提出制度を導入し、1週間の練習状況について、学生と教員が相互に確認出来るようにした。

これらの取り組みは、演奏技術向上（単位取得率アップ）および弾き歌いレッスンの効率化と自主練習の促進に一定の成果を上げてきた。なかでも、副教材「こどものうた課題曲指使いサブノート」の導入についてのピアノ非常勤講師と学生対象のアンケート調査では、「導入効果があった（100%）」、「練習に役に立った（83%）」等の回答と単位取得率10%アップにより、その効果を明らかにすることができた³⁾。

しかし、このような取り組みにも関わらず、短期間での演奏技術修得は難しい課題であり、他教科に比べGPAの低い科目（表4-1, 表4-2）として「到達目標」等の見直しの必要性が指摘されていた。

3. 研究の目的と方法

前述のような状況を鑑み、弾き歌い科目である「器楽Ⅲ」のGPAアップを目的に評価基準の見直しに着手した。

評価基準見直しについては、評価段階の修了曲数基準の変更にとどまらず、ピアノに対して苦手意識の強い初心者学生が、1曲でも多くの曲を経験できる方法を模索した結果、(1)初心者用教材「こどものうた簡易伴奏集」の作成、(2)弾き歌い教材別コース選択制の導入を試みるこ

表4-1. 平成25年度前期「器楽Ⅲ」初等教育科(保幼コース)評価内訳

評価	A A	A	B	C	D	G P A	単位取得率
人数	7	2	3	17	12	1.39	0.71
	4	1	2	11	24	0.81	0.43
	5	3	6	12	12	1.39	0.68
平均						1.20	0.61

表4-2. 平成25年度前期「器楽Ⅲ」保育科評価内訳

評価	A A	A	B	C	D	G P A	単位取得率
人数	5	1	0	17	9	1.25	0.72
	5	2	2	12	12	1.27	0.64
平均						1.26	0.68

とにした。

4. 初心者用教材「こどものうた簡易伴奏集」の作成

本学では、「器楽」科目以外に音楽関連科目として、「音楽表現」と「音楽」が1年前後期に開講されている。授業の内容は、音楽の基礎知識や歌唱表現、こどものうたの模擬的指導等である。「音楽」では、英音名についての指導は行っているが、和音伴奏に有効なコード学習までは進んでいない。平成21年度の「器楽」開講時期改定以前には、1年次「器楽」単位未取得者を対象に2年後期に再履修科目を開講し、英音名を活用した根音伴奏や和音伴奏の指導を行っていた。しかし、このようなコードネームによる指導は、学生自身で鍵盤のどの位置の指定音を弾けば良いのかという判断ができないため、記号を楽譜に書き変えたものを用意するなどの対応が必要であった。

そこで、そのような初心者学生の状況をふまえ、教材「こどものうた簡易伴奏集」作成に着手した。

(1) 簡易伴奏集作成について

1) 期間：平成25年10月～平成26年3月にかけて、平成26年度前期「器楽Ⅲ」からの使用開始を目標に作成作業を行った。

2) 掲載曲の選曲

本学の「こどものうた課題曲(50曲)」

から、使用頻度の高い30曲を選曲。

* 季節の歌(17曲)

サンタクロース・かたつむり・アイスクリーム・こぎつね・とんぼのめがね・うみ・おもいでのアльバム・みずあそび・たなばたさま・どんぐりころころ・まつぼっくり・うれしいひなまつり・たきび・まめまき・おしょうがつ・あわてんぼうのサンタクロース・こいのほり

* 生活の歌(2曲)

ごあいさつ・おかたづけ

* こどものうた(11曲)

ぶんぶんぶん・メリーさんのひつじ・おもちゃのチャチャチャ・あくしゅでこんにちは・やまのおんがくか・しあわせならてをたたこう・やぎさんゆうびん・せんせいとおともだち・ぞうさん・ふしぎなポケット・ミッキーマウスマーチ

3) 伴奏方法について

右手でメロディーを弾き、左手で簡単な伴奏をつける「簡易伴奏」とメロディーは弾かずに、和音を右手と左手に分割する「両手伴奏」の2つの方法について検討した結果、「簡易伴奏」で統一することにした。

伴奏方法の選択については、保育科「総合表現演習」受講者を対象にインタビュー調査を実施し決定した。

- ・調査期間：平成25年度後期
- ・調査対象：保育科2年生17名
- ・調査対象者の背景

2年前期「器楽Ⅲ」課題未修了の初心者
・調査内容

①右手でメロディーを演奏する簡易伴奏と②メロディーを弾かずに、両手で和音を分けて伴奏する2種類の楽譜を弾き比べ、各方法の感想についてインタビュー調査を実施。(図1, 2, 4)

・調査使用曲(5曲)

「ぶんぶんぶん」「やまのおんがくか」「どんぐりころころ」「メリーさんのひつじ」「おしょうがつ」より任意に1曲選曲。

・インタビュー調査結果(表5)

質問「どちらが弾きやすいか」に対する回答では、17名中12名が「②メロディーを弾かずに両手で和音を分けて伴奏」を選択し、「練習しないで弾けた」「弾きやすい」等の感想であった。一方、「①右手でメロディーを演奏する簡易伴奏」を選んだ学生は、「旋律のある方が安心」と②の伴奏方法での歌についての不安を述べている。

以上のような結果をふまえ、歌の安定と練習の必要性という教育的観点及び同一形態での伴奏の方が指導しやすいであ

表5. 平成25年度後期インタビュー調査

	質問事項		インタビューの回答
	①	②	
1		<input type="radio"/>	歌が得意なので、とても演奏しやすい。
2		<input type="radio"/>	とても弾きやすい、歌の音量が難しい
3		<input type="radio"/>	弾くのはとても簡単 タイミングが難しい
4		<input type="radio"/>	とても簡単に弾くのが楽 歌がむずかしい感じ
5		<input type="radio"/>	歌いやすい
6		<input type="radio"/>	安心感がある、とても弾きやすい
7		<input type="radio"/>	歌がむずかしい、弾くのはとても楽
8		<input type="radio"/>	声が出しやすい リズムに引っ張られる時がある
9		<input type="radio"/>	弾きやすい
10		<input type="radio"/>	歌が自信がない
11	<input type="radio"/>		旋律がある方が安心
12	<input type="radio"/>		2と4のリズムがむずかしい
13	<input type="radio"/>		歌うのがむずかしい 旋律がある方が安心
14	<input type="radio"/>		合わせやすいが歌うとなると旋律がある方が安心
15		<input type="radio"/>	とても簡単に弾きやすい
16		<input type="radio"/>	自分でもすぐに弾けた 練習しなくても弾けた
17	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	すぐに弾けた

やまのおんがくか



図1. 両手と音分割伴奏譜例

ろうという考えから、「①右手でメロディーを演奏する簡易伴奏」に統一することにした。

4) 伴奏付けの基本方針

伴奏付けは、平成25年度の「器楽Ⅲ」単位未取得者のバイエル進度を参考にし、バイエル50~70番程度の学生が演奏可能であることを前提に、以下の3点を基本として専任教員3名で共同して行った。(図2, 3, 4)

- ①単音(根音)もしくは重音の使用。
- ②音価は四分音符及び二分音符を基本。
- ③同音や類似音型の繰り返しの使用。

5) 著作権に関する手続き

日本音楽著作権協会への著作権使用許可の手続きを行う。



図2. 簡易伴奏譜例(1)



図3. 簡易伴奏譜例(2)



図4. 簡易伴奏譜例(3)

5. 「器楽Ⅲ」弾き歌い教材別コース任意選択制の導入

平成26年度前期「器楽Ⅲ」より「こどものうた簡易伴奏集」の使用を開始した。「簡易伴奏集」導入にあたり、「器楽Ⅲ」の弾き歌いレッスンを「サブノート」コース（教材『こどものうた200』『続こどものうた200』）と「簡易伴奏集」コース（教材「こどものうた簡易伴奏集」）の2コース任意選択制にした。このような任意選択制により、教師主導の能力別グループ分けとは異なり各自の意思が尊重された教材選択が可能となった。

「サブノート」コースの評価基準は、「こどものうた課題曲（50曲）」から、25曲修了（C評価）、30曲修了（B評価）、40曲修了（A評価）、50曲修了（AA評価）とし、「簡易伴奏集」コースの評価基準は、「こどものうた簡易伴奏集（30曲）」から25曲修了（C評価）とした。

「サブノート」コースと「簡易伴奏集」コースの最低修了曲数は同数であるが、弾き歌い指導は1年後期「器楽Ⅱ」後半からスタートしており、この時点での教材は、全員が「サブノート」を使用している。この本伴奏経験が学生自身によるコース選択の参考になっている。「サブノート」コース選択の学生は、引き続き同じ教材を使用することで概に修了している課題曲もあり、「簡易伴奏集」コース選択者とは異なる条件下での基準である。

5-1. 結果と考察

2年前期「器楽Ⅲ」における2コース任意選択制導入の結果、「簡易伴奏集」コースでは81.0%、「サブノート」コースでは98.3%が課題を修了し（表6）、学生のコース選択が的確であったことが窺える。GPA平均は、H25年度より0.7アップすることができた。（表7-1, 7-2）

「簡易伴奏集」コースにおける「簡易伴奏集」使用アンケート（表8）では、「簡単に編曲さ

表 6. 平成26年度前期「器楽Ⅲ」教材別修了状況 (人)

	初等教育科(保幼)	保育	計	課題修了	課題未修了	修了率
サブノート選択者	84	32	116	114	2	98.30%
簡易伴奏選択者	49	23	72	58	14	81.00%

表 7-1. 平成26年度前期「器楽Ⅲ」初等教育科(保幼コース)評価内訳

評価	A A	A	B	C	D	G P A	単位取得率
人数	10	3	13	13	3	2.10	0.93
	4	11	13	15	3	1.96	0.93
	12	3	13	13	3	2.18	0.93
平均						2.08	0.93

表 7-2. 平成26年度前期「器楽Ⅲ」保育科評価内訳

評価	A A	A	B	C	D	G P A	単位取得率
人数	3	7	10	8	2	2.03	0.93
	0	5	6	11	3	1.52	0.88
平均						1.78	0.91

表 8. 平成26年度前期「簡易伴奏集」使用アンケート (人)

	アンケート項目	初教 (34)		保育 (15)	
		はい	いいえ	はい	いいえ
1	自分で練習できた。	34 (100%)	0	15 (100%)	0
2	簡単な編曲で弾きやすかった。	34 (100%)	0	15 (100%)	0
3	簡易伴奏で歌いやすかった。	32 (94.1%)	2 (5.9%)	15 (100%)	0
4	自分でも弾けると思い、課題曲全曲終了を目指して頑張った。	32 (94.1%)	2 (5.9%)	13 (86.7%)	2 (13.3%)
5	その他簡易伴奏集を使用して感想があればお聞かせください。	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なので本伴奏のもやってみようと思えたのでよかった。 ・簡単だったのでピアノが苦手な私でもすべての曲を終了することができた。 ・もうすこし難易度が上でもよかった。 ・とても弾きやすく、すらすらとできるようになり、後半は簡易でなく本伴奏の方で弾けるようになった。 ・スムーズに弾くことができたので、次も頑張ろうと思うことができた。 ・助かりました。ピアノが弾けた気分になった。 ・少しずつ指使いもきちんとできるようになった。 ・余裕ができ、本伴奏も練習でき幼稚園実習で大変役に立った。 ・わかりやすいので練習する時間も増えました。 ・実習でも練習して弾くことができました。 ・レパートリーが増えました。 ・左手の動きがもう少しあってもよかったと思いました。 		<ul style="list-style-type: none"> ・この伴奏集になって後から見返しても弾けるようになっていた。 ・簡単だったので自分から頑張ろうという気持ちになり頑張れた ・とても弾きやすかった。 ・自分に合っていて弾きやすかった。今後も引き続き使用してほしい ・伴奏が簡単になっていたのやっていて楽しかった。 ・弾きやすかったので練習も長くできた。 ・全然弾けなかったけど弾けるようになったのでよかった。 ・すぐわかりやすく弾きやすいです。 	

れていたのが自分から頑張ろうという気持ちになり頑張れた」「わかりやすいので練習する時間も増えました」「レパートリーが広がりました」等の肯定的感想が多く、初心者にも有用な教材であることが示された。その他にも①学生の演奏技術に配慮した教材の提供、②コースの任意選択、③単位取得という目標の明確化、によ

り自主練習が意欲的に行われたことが推察出来た。また、「サブノートコース」においても課題修了率は高く、同様の取り組みがなされたことが窺える。

このように、「こどものうた簡易伴奏集」の教材としての有用性と教材別コース任意選択制の効果を確認することはできたが、さらに「こ

どものうた簡易伴奏集」の実用性の検証が必要であった。そこで、実際に保育現場で試験的に「簡易伴奏集」を使用してもらい、使用についてのアンケート調査を実施することで教材としての課題を明らかにすることにした。

6. 保育現場における「簡易伴奏集」の試験的使用調査

(1) 調査内容について

- ・調査期間：平成27年5月～8月
- ・調査対象：本学園系列の幼稚園（2園）
本学園系列の保育園（2園）
- ・調査方法
各園に「こどものうた簡易伴奏集」を配布し、5月～8月にかけての試験的使用を依頼。次に、8月中旬にアンケート用紙を配布し、9月初旬に郵送にて回収。
- ・調査項目
 - ①保育者の年齢
 - ②保育歴
 - ③担当クラス
 - ④短大・大学入学前のピアノ経験年数
 - ⑤学生時代に使用した教材
 - ⑥現在使用しているこどものうた楽譜集
 - ⑦楽譜集の伴奏の種類
 - ⑧簡易伴奏集で使用した曲
 - ⑨使用した感想
 - ⑩簡易伴奏譜があったらいいと思う曲
 - ⑪自分にとっての簡易伴奏必要性の有無

6-1. 結果と考察

回答は、幼稚園教諭12名、保育士15名のうち有効14名であった。アンケート結果(表9)は、11項目中の5項目(②④⑦⑨⑪)を抜粋掲載している。

④大学・短大入学前までのピアノ経験では、幼稚園教諭の場合は、7年～13年が11名、高校時1年間が1名である。保育士の場合は、3年～5年が4名、7年～12年が4名、経験なしが6名である。

⑦現在使用している「こどものうた」の伴奏の種類は、幼稚園では本伴奏、和音伴奏を使用、保育園では本伴奏、和音伴奏の他に簡単伴奏使用者が7名である。

⑨「こどものうた簡易伴奏集」を使用した感想では、幼稚園教諭の場合は、「簡単に弾ける」「年長向けではない」「リズムが単調、音の厚みがない」「弾ける努力をすることが大切」「難易度を上げつつ目標を持つべき」など、自身のこれまでのピアノへの努力が窺われる内容である。保育士の場合は、「ピアノが苦手でも弾くことができる」「慣れている弾き方と違ったので、弾きにくかった」「行事で使用するには物足りない」「レベルに合わせて使用できる伴奏があるとよい」など、保育現場で培った経験をふまえた意見や初心者レベルを考慮した意見が述べられている。

⑪自分にとっての簡易伴奏譜の必要性については、幼稚園教諭の場合は、必要ありが12名中4名、必要なしが8名。保育士の場合は、必要ありが14名中11名、必要なしが3名で、それぞれの経験年数の違いが反映された回答となっている。

7. まとめ

本研究は、「器楽Ⅲ」（こどものうたの弾き歌い）が他教科に比べGPAが低い科目として「到達目標」等の見直しを求められていたことをふまえ、その改善策として①初心者向け教材「こどものうた簡易伴奏集」の作成、②弾き歌い教材別コース任意選択制の導入の試み、及び③「こどものうた簡易伴奏集」の教材としての適正、等についての調査研究である。

教材別コース任意選択制の導入では、学生の進度に応じた教材選択が可能になったことで、単位取得率が上がりGPA平均アップの成果を上げることができた。しかし、「こどものうた簡易伴奏集」の保育現場使用アンケートでは、「リズムが単調」「音の厚みがない」「レベルに合わせて伴奏が選べる工夫」などの感想が書か

表9. 保育現場アンケート抜粋

②保育歴	④短大入学前ピアノ経験	⑦使用伴奏の種類	⑨感想	⑩要不要	
幼稚園	1年	小1～中2(8年)		初見や音取りにはよいが、発表の場には向かない。	×
	15年	大学まで(12年)	本伴奏	とても簡単。年少では楽しく歌ったが他の学年ではどうか。移調の曲は、原曲で歌っているクラスと音の高さが違う。	×
	1年		和音伴奏	初心者でも取り組みやすい。慣れたら、ワンランク上の伴奏を弾けるように和音が併記されているとよい。	×
	2年	小1～中3(9年)	本伴奏	簡単に弾けてすぐに覚えることができるので子どもをみながら弾ける。参観のときなどは物足りないかも。	○
	20年	小1～中3(9年)	本伴奏	ピアノが弾けない人にはとっては弾きやすいと思う。ピアノで子どもの気分が乗ることもあり、少し音が足りないと思う。	×
	20年	幼～小6(9年)		年長児には簡単すぎて物足りないと思う。	
	2年	幼～中2(11年オルガン)	和音伴奏	年長児には簡単と思う。メロディーを覚えるにはよいが、これに慣れるとこれ以上のものが弾けなくなりそう。	○
幼稚園	2年	幼～小(8年)		簡単に弾きやすいが、年長向けではない。子どもたちも和音がある方が喜んで歌うので、あまり使用しようと思わなかった。頑張っ練習してでも本伴奏を弾きたい。	×
	10年	小1～小6(6年)	本伴奏	「みずあそび」は左手が全音符なのでリズム感がなくなる。これくらいの曲なら本伴奏の方がよい。「あくしゅでこんにちは」はふれあい遊びとして子どもテンポを取れるので、入園当初はよいと思った。始めのころは使ってもよいが、発表の場ではやめた方がよい。	×
	25年	小1～中3(9年)	本伴奏 和音伴奏 簡単伴奏	主音をはっきりしているので園児の聴く力に繋がる。主音を感じられたらもう2段階くらい上の伴奏にすると保護者が安心すると思う。「おもちゃのチャチャチャ」の10小節目の伴奏はしっかりこない。	○
	5年	幼～高3(13年)	本伴奏 和音伴奏	1音だったり、リズムが単調なため厚みがなく子どもたちが歌いにくいのではと思った。「こどものうた」が弾けるように努力する大切さを学生のころから培っておかないと社会に出て様々な面で大変な思いをすと思う。	×
保育園	4年	高1年間	本伴奏	簡易伴奏が必要だと思うときもあるが、保育者養成としての教材ならば、少しずつ難易度をあげて最終目標を持ってすべきだと思う。	○
	3年	小1～高1(10年)	本伴奏	とても簡単に弾きやすかった。ピアノの経験がない人にはよいと思う。	○
	19年	小1～小4(4年)	本伴奏 和音伴奏 簡単伴奏	使われている音が少ないので弾きやすいが、音に広がりがないため、カッコなどで「余裕があればこの音も弾くとよい」などが付け加えられていると自分のレベルに合わせて使用できるのではないかとと思う。	○ (曲によっては)
	20年以上	なし	簡単伴奏	子どもたちが、今までの伴奏と違うことに気付き、首を傾げたり「何か違うよ」と声がかかったりした。	○
	8年	幼～小6(7年)	本伴奏	簡単すぎて逆に弾きにくかった。子どもたちも今までの流れのあるようなピアノ音で歌っていたので、歌いにくそうだった。	×
	12年	高3(1年)	本伴奏 和音伴奏 簡単伴奏	初心者としては、弾けたという自信がつくと思う。ただ、年長のように本伴奏に慣れている子供にとってはやはり歌いにくさは感じているようだった。	○
保育園	25年	小1～小5(5年)	本伴奏 和音伴奏 簡単伴奏	1小節に1音のみの伴奏というのが多かったので、音が少ないかなと思った。初見ですぐに弾けて、即戦力にはなりましたが、行事に使用するには物足りない思いがする	○
	4年	小2～高2(10年)		アイスクリームは短音で伴奏があまり動かないので、弾きやすい。最後の装飾音符はあった方がよい。とんぼのめがねは、伴奏の和音も少なくメロディーがはっきりと聞こえるのでよかった	○
	2年	なし	簡単伴奏	大学時のものよりも音が少なく、ピアノが苦手な自分でも弾きやすくなった	○
	8年	なし	和音伴奏	ピアノが苦手でも弾くことができるが、子どもにとっては物足りない感じがあるように思う	○
	7年	小1～高3(12年)	本伴奏 和音伴奏	単音での伴奏は簡単ではあるもののリズムが取りづらく子どもたちも歌いにくそうだった。2～3音の和音で伴奏できたらよいと思う。	×
	15年	なし	簡単伴奏	和音などを自己流ですることが多いので、弾きにくいところもあった	○
	8年	小(4年)	本伴奏 和音伴奏	簡単にすぐ弾けるが、いつもの音に慣れているので、子どもも歌いにくそうだった	×
	19年	なし	簡単伴奏	長年弾いている曲は、自分の中にしみついているので、かえって弾きにくかった。普段難しく、敬遠してしまう曲の簡易伴奏があればよいと感じた	○
	27年	なし	和音伴奏	自分なりの簡易伴奏で長い間弾いているので(コード)改めて、本書を弾こうとすると、戸惑ってしまう場面が多かった	○

れ、これらの意見を取り入れた内容修正が必要であることが示された。「簡単に弾ける」という面では初心者には有用な教材であるが、今後

は、今回明らかになった課題の改善に取り組み、教材としての内容の充実を図ることで実用性を高める考えである。

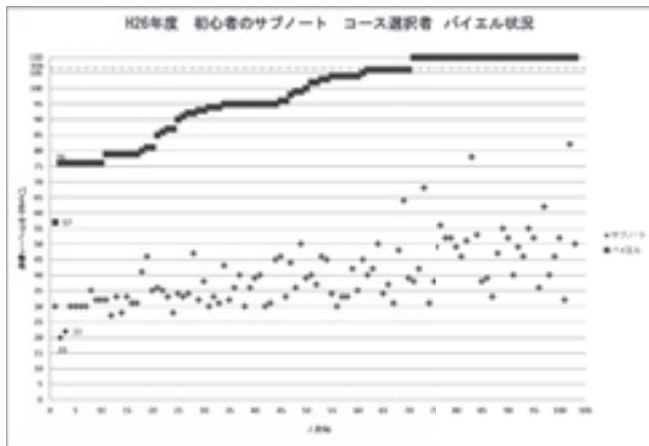


図5. 平成26年度初心者サブノート修了状況とバイエル進捗

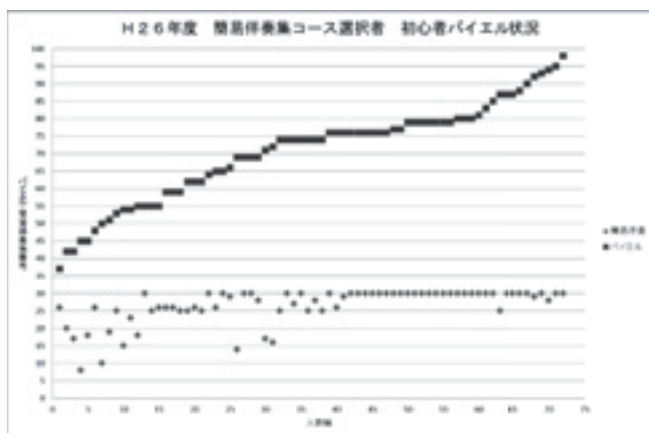


図6. 平成26年度初心者簡易伴奏修了状況とバイエル進捗

また、2つのコースにおける初心者の1年次バイエル修了状況(図5, 6)を見ると、バイエル進捗76番以降の学生が「サブノート」コースを選択し課題を修了している。一方、同程度のバイエル進捗75番～98番の学生が「簡易伴奏集」コースを選択し課題を修了している。このコースの学生は、課題修了後には「サブノート」コース課題に進むシステムになっているが、選択段階で「サブノート」コースを選択可能な学生がいるのではないかと考えられる。このことについては、コース選択時の課題として提示方法等の改善が必要であろう。

今回の調査により、「こどものうた簡易伴奏集」における実用性及びコース選択時における

提示方法の課題が明らかになった。今後は、これらの課題改善に取り組み、保育者養成における「こどものうたの弾き歌い」指導に関する研究を進めて行く考えである。

付記

本稿は、平成27年度日本音楽教育学会全国大会での口頭発表「保育者養成における弾き歌い教材別コース制導入の試みー「こどものうた簡易伴奏集」導入を通してー」を加筆修正したものである。

また、本研究を遂行するにあたり、別府大学附属幼稚園・明星幼稚園・春木保育園・境川保育園の先生方にアンケート等で多大なご協力をいただきましたことをここに記し、感謝の意を表します。

引用文献

- 1) 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』(平成20年10月) 2008 フレーベル館
- 2) 厚生労働省 『保育所保育指針』(平成20年告示) 2008 フレーベル館
- 3) 仲嶺まり子 こどものうた弾き歌い指導における副教材の活用についてー「指使いサブノート」導入の試みを通してー 『別府大学短期大学

部紀要』第33号 2014 p.136

参考文献

- 1) 小林美実編 『こどものうた200』 チャイルド本社 2011
- 2) 小林美実編 『続こどものうた200』 チャイルド本社 2011
- 3) 仲嶺まり子 保育者養成における「器楽」科目の開講手法に関する一考察ー本学における開講時期改定の試みを通してー 『別府大学短期大学部紀要』第32号 2013 pp.149～156
- 4) 西海聡子 笹井邦彦 細田淳子 保育者養成教育における弾き歌いーコード伴奏へのメソッドー日本保育学会第64回大会発表要旨集 2011 p.209

- 5) 西海聡子 笹井邦彦 細田淳子 保育者養成教育
における弾き歌い(2) -なぜ転回形を使わないの
か- 日本保育学会第65回大会発表要旨集 2012
p. 350
- 6) 若宮由美 子どもの表現力を支える力 -養成校
における初見学習と学生の意識- 日本保育学会
第67回大会口頭発表資料 2014